

当院において、ロボットリハビリ機器（HAL）の治療を受けられた患者さんへ

当院は、ロボットリハビリ機器である HAL による治療を取り入れております。  
HAL により、一部の神経の病気の患者さんの歩行障害が改善することがわかってきました。  
神経難病であるパーキンソン病に対しても HAL による治療が有効かどうかを明らかにすることを旨し、以下の研究を行っております。

**【研究課題】**

起立歩行障害をきたしたパーキンソン病患者に対する腰 HAL 治療の効果の研究について  
(審査番号 2024084)

**【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】**

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示す通りです。

研究機関 東京大学医学部附属病院 老年病科

研究責任者 小川純人(老年病科教授)

担当業務 データ解析

**【研究期間】**

承認後～2030年3月31日まで

**【対象となる方】**

2020年11月以降に当院に入院され、HALによる治療を受けたパーキンソン病の患者さんが対象になります。

**【研究の意義】**

今回の研究で、HALがパーキンソン病の患者さんの身体機能の改善に役立つことがわかれば、パーキンソン病の患者さんにとって新たな治療選択肢を提供することが期待できます。

**【研究の方法】**

あなたが HAL による治療を受けられる前後に取得させていただいたデータ（身体機能、アンケートに対する回答）を活用します。対象の皆様にならにご負担いただくことはありません。このデータを東京大学医学部附属病院老年病科に提供し、HAL がパーキンソン病の患者さんの身体機能の改善させるかどうかを解析します。

**【個人情報の保護】**

この研究にデータは、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの情報・データは、分析する前に氏名・住所・生年月日などの個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当院の脳神経内科用サーバーでパスワードロックをかけた電子ファイルにて保存します。そのデータが東京大学医学部附属病院老年病科に送られて解析されます。そこでも、パスワードロックをかけた外部ストレージに入れ、鍵のかかった引き出しの中で厳重に保管します。そのため、外部に個人が特定される形の情報が流出する恐れはありません。

本研究で得られた結果は、学会や学術雑誌等で発表する予定です。匿名化されたデータを解析した結果を公表するので、個人が特定されることはありません。

この研究のためにご自分のデータ等を使用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先に2025年12月31日までにご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承くださいましたものとさせていただきます。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

皆様のご理解・ご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

**【問い合わせ先】**

一宮西病院 脳神経内科 山口 啓二

電話番号： 0586-48-0077